

平成24年12月25日
於：区議会大会議室

第4回 世田谷区基本構想審議会 次第

議 題

1. 世田谷区基本構想たたき台の検討
2. その他

【資料】

- 資料1 世田谷区基本構想たたき台
- 資料2 世田谷区基本構想（短縮版）たたき台
- 資料3 世田谷区基本構想（竹田委員案） (当日配付)
- 資料4 区民アンケートの自由意見欄について (当日配付)
- 資料5 「新たな基本構想に関する区民意見・提案発表会」開催概要 (当日配付)
- 資料6 区長と区民の意見交換会の報告 (当日配付)

【参考資料】

- 区制80周年記念文集（「20年後の世田谷」をテーマとした、小中学生の意見）
(当日配付)

《次回予定》

第5回審議会 1月17日（木）18時30分 区議会大会議室

世田谷区基本構想たたき台

1 自治の発展と深化を目指して～区民が区と共有する公共的な方針～

わたしたち世田谷区民は、長期にわたるデフレ経済を経験するとともに、高度情報化とグローバル化による社会構造、生活様式の大きな変化や、格差の拡大などの問題に直面してきました。また今後20年の間に、世田谷区の総人口はあまり変化することなく推移すると予想されるものの、少子高齢化による人口構成の一層の高齢化は避けがたく、社会保障制度の維持など、さまざまな課題の解決が求められてきます。

さらに、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、既存の社会システムの脆さをあらわにし、わたしたち一人ひとりの生き方や、地域社会のあり方の土台を揺さぶることになりました。これまで当たり前のように思ってきた日常生活の営み、行政との関係についても根本から見直す必要に迫られています。

このような時代にあって、世田谷区民は、わたしたち自身と、子どもたちの将来のために、この困難な状況を乗り越える決意を込めて、新たな基本構想を策定します。

この基本構想は、都内最大の人口を持つ自治体に住む世田谷区民が、区民の主体的な参加による自治の発展と、将来に向けたさらなる自治権の拡充を目指して、行政と共有する公共的な方針です。

その中心となる理念は、自治の発展と深化です。世田谷区民は、地域社会の一員としての自覚と責任を持ち、行政に任せきりにしない主体的な発想で、地域社会と区政に積極的に関わり、地域の自治を担っていくことをめざします。また、誰であれ基本的人権が尊重され、自らの意志で生き方を選択し地域社会に参加できる、社会的包摂のしくみをつくっていきます。

世田谷区の80年の歴史の中で、先人たちは、緑豊かで水に恵まれた住環境や、多様性を尊重しゆるやかに共存していく文化を伝えており、個性豊かな地域性も残されています。また、発足から65年になる特別区としての歴史は、区長公選制の実現など、区民に最も身近な政府である区の、自治権拡充に向けた運動の歴史でもあります。

世田谷区民は、このような区の歴史と地域性を尊重し、この地の自然とともに生き、環境を守るとともに、区民相互のつながりを自覚的につくることで、わたしたちが受け継いだ世田谷区をより豊かに発展させて、将来の世代へと継承していかなければならないと考えます。

わたしたちは、身近な政府である世田谷区とともに、この基本構想に込められた理念を実現していくことを決意いたします。

2 将来目標

目標1 個人を尊重しつながら——すべての人が自分らしく暮らし、支え合う

年齢、性別、国籍、障害の有無、居住年数等にかかわらず、すべての人が自分らしく暮らし、尊重し合いながら、地域社会に参加します。高齢者や障害者、子ども、外国人などが孤立しないよう地域の中で支え合います。また、男女が互いを尊重しつつ責任を分担し、一人ひとりの個性や能力を発揮できる環境整備に努めます。

目標2 開かれた地域自治を担う——自らの責任と判断で行動し、参加する

誰もが自治の担い手となれるよう、さまざまな手法によりコミュニティへの参加の機会やしくみをつくり、地域で担い手を育てます。また、区民と行政が身近な地域・地区で協働し、防災・減災や見守りなど、今後さらに増えていくことが見込まれる公共的課題の解決を図ります。

目標3 子ども・若者が輝く——地域社会で輝きながら育つ

教育環境を充実するとともに、子育て家庭が孤立しないよう交流の機会をつくり、家庭、学校、地域、行政が一体となって、次代を担う子どもと若者の健やかな成長を支援します。また、声を上げにくい子どもたちの人権の擁護に努めるとともに、若者が自分を大切にし、希望を持って生活できるよう支援します。

目標4 健康に暮らす——健やかでこころ豊かに生活する

今後ますます高齢者が増えることを踏まえ、一人ひとりが、こころとからだの健康づくりを心がけ、いつまでも地域で暮らし、自分のできる範囲で役割を担えるようにします。介護予防の取組みや、介護が必要な人、障害がある人などを支える活動を支援し、地域で人材を育てます。また、保健・医療、福祉サービスが連携し、適切なサービスや必要な情報が得られる基盤をつくります。

目標5 防災・減災のまちをつくる——しなやかな復元力を持つまちを目指す

一人ひとりが防災・減災の意識と知識を持ち、日ごろから災害に備えるとともに、避難所となる学校などの身近な防災拠点で、地域の人とともに取組みを進めます。また、建物の不燃化や、緊急避難道路の整備、豪雨対策など、災害に強い街づくりを進めます。

目標6 環境を守る——小さなエネルギーで暮らし、みずとみどりを創出する

ライフスタイルを見直し、地球環境に配慮して小さなエネルギーで暮らすように努めます。再生可能（自然）エネルギーを巧みに使い、エネルギーの地産地消が可能な、「小」エネルギー社会をつくります。また、豊かなみどりやみず、都市の貴重な農地など、やすらぎを提供する自然環境を大切にし、次の世代に継承します。さらに、環境にやさしい公共交通や自転車利用を進めます。

目標7 歩いて楽しいまちをつくる——地域の個性を活かした魅力的な界わいをつなげる

文化芸術やスポーツに親しむ区民の活動、にぎわいのある商店街、多くの文化人の活動や歴史ある街並など、地域の個性ある文化や風景を育み、創造し、発信します。また、これらの魅力を界わいとしてつなげることで、歩いて楽しいまち、にぎわいと活力に満ちた住環境をつくるとともに、総合的な街のデザインを進めます。

目標8 地域で働く——地域が産業を育み、産業が地域を支える

区内の大学や産業との交流・連携を進め、地域コミュニティの一員として地域に関わるよう促すとともに、地域の人材、歴史的資源や農地、空き家などの地域資源の活用を進めます。また、地域のために地域で働くライフスタイルを実現するソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、NPOの地域参画を促進します。

3. 基本構想の実現に向けて（実現の方策）

基本構想は区政の最上位の基本方針です。区民・事業者と行政は日頃から連携を密にし、信頼関係を築き、積極的に協働し、それぞれに役割をもって、創意と活力に満ちたまちづくりを進めます。また、行政は、この基本構想に基づいて計画的で総合的な行政運営を進めるものとします。

（1）区民・事業者の役割

区民・事業者は、地域の課題解決に自分のこととして取り組みます。将来目標の実現に向けて、行政と連携し、補完し合いながら、公共サービスの担い手として社会的責任を果たします。また、税の配分や公共サービスが適正に執行されているかについて、区民全体の視点から判断し、評価します。

（2）行政の役割

行政は、基本構想に基づいて基本計画をはじめとする計画を策定し、計画的かつ総合的な行政運営を行うとともに、基本的なインフラ整備などを着実に実施します。

情報公開を進めるとともに、区民、町会・自治会、NPO、事業者等と、総合支所、出張所・まちづくりセンターなどのさまざまな地域レベルで協働して、地域の公共的課題の解決を行います。また、主体的に活動する区民や事業者を支えるため、町会・自治会等の地縁のつながりと市民活動団体などテーマごとのつながりが出会い、連携する地域コミュニティの基盤をつくります。

（3）持続可能な自治体経営

社会資本や公共施設の更新と適切な維持管理、行政経営改革を不断に進め、将来の財政需要や景気変動にも耐えうる財政基盤の確立を図るとともに、国や都の支援なども含めた資源を最大限確保します。

（4）自治体経営の評価と推進

行政は、情報公開のもと、無作為で選んだ区民をはじめ幅広い区民が参加するワークショップ、区民会議など、さまざまな住民参加の場を設け、自治体経営を進めていくとともに、基本構想、基本計画等の評価を行い、計画、実施、評価、改善のサイクルを徹底していきます。

（5）自治権の拡充

地域の実情に即した政策を主体的に企画、実行するために、今後も都区制度の改革を積極的に進め自治権の拡充に取り組み、財政自主権の確立を図ります。

（6）広域協力と自治体間交流

世田谷区は、国や都と対等な立場で相互協力し、また、近隣自治体と連携して広域的な課題解決を図ります。

また、国内外の自治体との交流を進め、それぞれの特色を活かしてエネルギー問題や災害時の協力体制等を構築するとともに、国際交流の発展に貢献します。

世田谷区基本構想（短縮版）たたき台**1 自治の発展と深化を目指して～区民が区と共有する公共的な方針**

わたしたちは、社会構造や生活様式、人口構成などの大きな変化に直面しており、社会保障制度の維持など、さまざまな課題の解決が求められています。また、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、一人ひとりの生き方や、地域社会のあり方の土台を揺さぶることになりました。

このような時代にあって、世田谷区民は、この困難な状況を乗り越える決意を込めて、新たな基本構想を策定します。この基本構想は、区民の主体的な参加による自治の発展と、将来に向けた更なる自治権の拡充を目指すため、行政と共有する公共的な方針です。

その中心となる理念は、自治の発展と深化です。世田谷区民は、地域社会の一員としての自覚と責任を持ち、地域の自治を担い、社会的包摂のしくみをつくっていきます。

わたしたちは、身近な政府である世田谷区とともに、この基本構想にこめられた理念を実現していくことを決意いたします。

2 将来目標

- 目標1 個人を尊重しつながら**—すべての人が自分らしく暮らし、支え合う
- 目標2 開かれた地域自治を担う**—自らの責任と判断で行動し、参加する
- 目標3 子ども、若者が輝く**—地域社会で輝きながら育つ
- 目標4 健康に暮らす**—健やかでこころ豊かに生活する
- 目標5 防災・減災のまちをつくる**—しなやかな復元力を持つまちを目指す
- 目標6 環境を守る**—小さなエネルギーで暮らし、みずとみどりを創出する
- 目標7 歩いて楽しいまちをつくる**—地域の個性を活かした魅力的な界わいをつなげる
- 目標8 地域で働く**—地域が産業を育み、産業が地域を支える

3 基本構想の実現に向けて（実現の方策）

基本構想は区政の最上位の基本方針であり、区民・事業者と行政は、それぞれに役割をもって、創意と活力に満ちたまちづくりを進め、持続可能な自治体経営と自治権の拡充、広域協力等を進めます。

また、基本構想、基本計画等の、計画、実施、評価、改善のサイクルを徹底します。

世田谷区基本構想（竹田案 ver. 2）

世田谷区は80年ほど前に世田谷、駒沢、玉川、松沢、千歳、砧の2町4村が合併して生まれ、東京都内で最も多くの人々が暮らす住宅都市に発展しました。私たち区民は、緑と水に恵まれた自然環境や地域の文化、伝統を大切にしつつ、寛容で元気な社会をつくってきました。一人ひとりの思いやりや努力のたまものです。これからも引き継いでいきます。ただ経済成長を前提とした社会の仕組みは行き詰まり、活路を見いだせないまま、少子高齢化が進んでいます。資金や労働力のグローバル化は地域にも変化を迫り、東日本大震災と原発事故では、災害への備えがいかに重要かを痛感しました。こうした厳しい時代は、経済成長あってこそ「お任せ民主主義」ではなく、主権者の私たちが公に主体的にかかわる「参加型民主主義」で乗り越える。そんな将来像を描きながら、今後の指針をこの基本構想にまとめました。区にも最優先の政策として共有してもらい、ともに実現に努めます。

一、個人を尊重し、誰もが自分らしく暮らせる社会であり続けるために、思いやりや努力を怠りません。お年寄りや障がい者、子ども、外国人が孤立しないよう人と人とのつながりを大事にします。男女が互いに責任を分かち合い、それぞれの個性や能力を発揮できる地域をめざします。

一、多様な家族のあり方をふまえた子育て支援を区と一緒に進めます。子どもの人権を守り、教育環境を整えて健やかに成長するよう地域の力を結集します。区立学校教員の人事権がないなどの懸案解消も都に要求していきます。若者が希望を持って生活できるよう就職活動などを応援します。

一、私たちは元気に暮らしていくため、心と体の健康に注意します。医療や介護の必要なお年寄りが多くなるので、地域で支える人や活動をサポートします。介護予防や認知症サポーターの取り組みも支援します。医療と福祉が連携を欠くケースがないよう気を配ります。

一、防災や災害の被害を最小限に食い止める「減災」をいつも意識した地域でありたいと考えています。区と協力し、避難・輸送路や延焼をさえぎる空間の整備、建物の耐震化、小学校を避難所と想定した準備、復旧・復興計画づくりなどを急いで進めることが必要です。

一、緑と水に恵まれた自然環境や貴重な農地などは将来に継承しなければなりません。環境にやさしい公共交通機関や自転車の利用を呼びかけます。地域での再生可能エネルギーの活用に加え、ライフスタイルを変えて省エネルギーをさらに進めた「小エネルギー」の暮らしを提案します。

一、区内には公の一端を担うNPO法人がたくさんあり、寄付金控除制度の利用をPRして質、量ともに充実させます。区内の大学には、地域にかかわる活動を求めています。地元で働く区民が増えれば、公にもかかわりやすく、職住近接が可能な分散型知的産業などを呼び込みます。

一、財政は厳しいですが、区民に必要な道路や橋などの整備、補修は進めましょう。一方、文化・芸術に親しむ施設やスポーツができる場所、にぎわう商店街、歴史のある街並などもなくてはならないものです。空き家利用も推進し、これらをつなぐ街全体のデザインが検討課題となります。

一、公にかかわる区民が多くなればなるほど、自治は深まります。そのためには、まず行政情報をアクセスしやすい形で公開することが不可欠です。また区政のテーマについて、無作為に選ばれた区民が意見を述べる「区民会議」（仮称）をつくり、その成果を区政に役立てほしいと考えています。

区はこの基本構想にもとづいて基本計画をつくり、行政の運営に当たります。私たちは進んで公にかかわり、基本構想の実現に力を尽くすとともに、区が基本構想から外れた行政をしていないか、公的サービスに手抜きはないか、税金を無駄遣いしていないかなどをチェックしていきます。区も行政の運営を自ら検証し、改めるところは修正して私たちに報告してください。

区民アンケートの自由意見欄について

区民アンケートについて、実施結果を報告する。

1. 主旨

新たな基本構想の策定にあたって、より多くの区民の意見を聴くため、区民アンケートを実施し、基本構想審議会での議論の参考とする。

2. 実施期間 平成24年11月15日～12月5日

※12月12日まで期間延長

3. 提出件数 685件（※12月12日現在）

内訳 ハガキ596件、ホームページ76件、FAX4件

封書2件、持参7件

4. 自由意見欄に寄せられた主な意見

「地域のつながりの強化」は言うは易く、実行が難しい。現在は、「個人の意見がバラバラであるのと同時に他人にあまり干渉されたくない」という人間形成がなされているので、これを打破するのは容易ではない。

①については、特に早期に充実を願いたい。そのために区民（各世代）と教育や行政が一体になって、健康（特にこころ）で、生きる喜びを感じることで、障害者や若者、子育て中、リストラにあった方などの生活支援を支援できるように願っています。

これから益々高齢化が進みます。特に退職した男性の行き場があまりないようなので、もったいない。仕事ではなく、能力を生かす場を求めています。

問1⑥あらゆる人が地域の生活に満足し、自分らしく暮らし続けられるように世田谷区全体がなれば素晴らしいですね。そのために自分のできることは何かみなで考えましょう！！

問1の⑤と問2の③と⑤は賛成ですが、みどりの保全は相続税、土地についても土地税制の改訂がないと畑の住宅化、邸宅のミニ宅地化となり、緑がなくなる。更なる植栽の義務化が必要と思います。

子育て世代です。問2の②⑤などインフラ整備よりも区民のコミュニティ作りと財政健全化が優先課題と考えます。20年後は子ども達が大人になっており、住み続けたい街であるには上記の条件の方がより魅力的です。また、親の一義的責任は重々承知していますが、親の心身が健全であることが前提であり、そのための支援は区で実施してほしい。

脱原発の自治体の先駆けとして電気などのエネルギーの安全な地産地消を目指したい。安全な環境があって初めて安心できるコミュニティが可能で。

<p>活気あふれるまちをつくる視点のなかに、産業、経済活動の活性化という考えをもっといれるべきでないかと思います。</p>
<p>問1の①・③を重視します。そのためにネット、ソーシャルネットワークを活用。(東日本大震災の時、ソーシャルネットワークが大いに活躍。多くの問題をネットワークに参加している人々が処理、解決した。)答えはすべてここにあった。変化に柔軟に対応する能力が高い。このような社会構築を望む。</p>
<p>厳しい財政の中、全て行政が行うこと不可。小さい政府(行政)で、基幹は教育・医療・安全で極力民営化、区有資産の活用(中学校など)、みどり33の推進等。</p>
<p>行政が区民に求める役割をぜひ整理し明確化して欲しい。交通網の整備に狭あい道路等に商店街の拡充、電柱の地中化を進めて欲しい。</p>
<p>緑の多い街を残せる様に子供達が安心して遊べる環境を作る。</p>
<p>現在私町会役員をしながら、みじかな町作り等で活躍していますが、町会役員等は高齢者が多くあまり色々な運動等に参加できませんで残念に思っています。若い方達をもっと参加してもらいたい。</p>
<p>地域でのつながりの強化は、地元の商店・商店街が核となります。そのために、商店を活性化させる政策が今以上必要と考えます。</p>
<p>私は一時期世田谷を離れましたが、50年以上住んでいる者です。一番残念なことは畑や空き地、緑地がどんどん減ってしまったことです。何とか残し、子どもが自由に遊べる空間を作ってほしいです。また、区民が「まちづくり」計画に参画したり意見を言える場を多角的に構築してほしいです。</p>
<p>基本構想をつくる為とは云え、余りにも抽象的、概念的過ぎる。「何をどうして、何を達成する」のか、意図を明確にした上で、市民の意を問うて欲しい。</p>
<p>本当にこれを実現させるには相当な費用・各人の負担が必要だと思います。いろんな人が自分らしく暮らせるというのと、閑静な街と言うのは相反するのではないかと思います。音楽好きな民族の人が好きな音楽を大音量でかけたら他の人の自分らしさが抑制されます。それを注意したら「俺らしさを奪うな!」ということになります。こう書いては失礼ですが「地上の楽園」みたいな考えのように思えます。義務と責任という言葉がほとんどない。権利は必ずぶつかり合います。そこをどう織り込んでいくかではないかと思います。</p>
<p>基本構想は区政の基本指針に過ぎない。この理念を基本計画にどのように落とし込んでいくのが肝要である。</p>
<p>全国の地方自治のモデルとなるよう、積極的に施策を立案し行政と区民が協働でチャレンジできるような姿を実現したい。</p>
<p>この地で生まれ育ったもので、故郷はここなので、昔の良い世田谷は、残して欲しいと思いますが、時代を考えると旧来のコミュニティでは機能しなくなっている様に思いますので新しい関係性の構築を期待したいです。</p>
<p>道路整備された、美しい景観を持つまち並み。子供に安全なまち。緑が多く、空が広いまち。</p>

区政への住民参加が重要。自分が住んでるコミュニティを良くしようとする意識を多くの人が持ち、それが気軽に実現できる社会が目標。

- ・ 非法定となった基本構想を策定し議決する目的を議会と共に議論し区民に示すべき。
- ・ 現行基本構想のどこが有効でどこが有効でなかったのかを理由をつけて示すべき。
- ・ 今後 20 年の変化をどう想定するかを示すべき。
- ・ 基本計画の項目立てではなく、基本計画に通底し、その策定の拠りどころを示すべき。
- ・ 実現への道筋又は道筋の担保方策を示すべき。
- ・ 20 年後の「目指すべき姿」ではなく、今後の取り組みが（動詞によって）示されている。整理すべき。
- ・ 「地域…」が多用されているが、それぞれの内容とスケール及び現状認識をまず示すべき。
- ・ 第 1 部会「行政は、…地域社会を下から支えるルール管理者へと役割を変えていく」ことを安易に進めるべきではない。行政は、当事者であり、かつ、区民・事業者の「活躍」を第三者が評価する体制が整っていない。
- ・ 第 2 部会「身近な拠点空間と延焼遮断効果などを持つ空間」の内容を明確にすべき。
- ・ 区報 1 面中の記述「新たな基本構想は、世田谷区の自治を担う区民の誰もが共有できる、公共的な方針として策定…」の内容を明確にし、区民意見をきちんと聞くべき。

多摩川や農業など、他の区にはない特徴を生かした、美しい自然との調和を目指した世田谷区を作って欲しい。

保育料、学童の値上げ、区立幼稚園の閉校、小学校の統廃合と、子どもたちにとって不利益な話ばかり耳に入ってきます。そして、あちらこちらで老人ホームの建設話が・・・世田谷区は老人の多い街づくりを目指しているのでしょうか？老人も大切です。でも、子どもをもっと大切にし、増やす環境にしていかないと世田谷区は衰退していきます。地域で担い手を育てるには子どもや若い人を増やさないと！その政策がみえません。

構想だけでなく、財源をどうするか明確にしてもらいたい。高齢者が施設ではなく在宅で介護され生活できるシステムを充実してほしい。

理想的な美辞麗句の羅列だけでは構想を実現することはできない。具体的な展開を計るための計画（誰が、何を、いつまでに、予算、etc.）を早急に立てることが肝要。また、区民の自主性を喚起するための策が不可欠。

【参考】区民アンケート設問

問1 基本構想審議会の議論で挙げられた「世田谷区が目指すべき姿」のそれぞれについて、どの程度共感できるか、お答え下さい。

世田谷区が目指すべき姿	一つ選択して○を付ける
① 地域でのつながりの強化	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
② 行政と区民・事業者の役割の見直し（行政、事業者、区民の新たなパートナーシップの構築）	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
③ 防災・減災・復興コミュニティ都市世田谷の構築	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
④ 環境への負荷軽減をめざす	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
⑤ 魅力的で活気にあふれるまちをつくる	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
⑥ あらゆる人が地域で自分らしく暮らし続ける	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
⑦ 地域で担い手を育てる（地域の課題を解決するための担い手を地域で育てる）	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
⑧ 地域の中で子どもが育つ	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない

問2 区民ワークショップで提案された「今後20年の間に実現させたいこと」のそれぞれについて、どの程度共感できるか、お答え下さい。

今後20年の間に実現させたいこと	一つ選択して○を付ける
(1) 多世代の区民同士が交流し、コミュニティを形成し、誰もが生き生きと暮らせるまち	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
(2) 交通網が整備され、便利で、車、自転車、歩行者が安全に移動できるまち	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
(3) 自然や文化、伝統、産業、農業、閑静な住宅地といった世田谷ブランドを維持し、発展させたまち	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
(4) 堅実な区財政のもと、区民が区政に参画し、ともにまちづくりを進めるまち	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない
(5) 電信柱がないなど景観が保全され、みどりや自然、文化遺産が保全されたまち	大いに共感できる ・ 少し共感できる あまり共感できない ・ 共感できない

問3 新たな基本構想の策定に向けてご意見をお寄せください。

（問1、問2の将来目標を選んだ理由、ご自身が考える世田谷区の将来目標等、ご自由にお書きください。）

「新たな基本構想に関する区民意見・提案発表会」開催概要

日 時：平成25年1月12日（土）13:00～17:20

場 所：世田谷区役所第2庁舎4階 区議会大会議室

目 的：日頃から区内で活動している地域団体などの皆さまからの意見・提案を基本構想審議会の議論に生かすため発表会を実施する。

応募要件：3人以上で構成される団体または3人以上の連名によるグループ

※団体は区内に事務所や事業所を有する法人・団体

グループは区内在住・在勤・在学者による3人以上での応募

募集内容：これまでの基本構想審議会・部会の議論を踏まえた「20年後の世田谷区が目指すべき姿」についての意見・提案

発 表 者：29 団体

当日のスケジュール及びプログラム構成（案）（29 団体発表）

12：30～	受付開始（発表者、傍聴）
13：00～	開会
13：02～13：07	区長挨拶
13：07～13：10	ガイダンス（進行者）流れの説明
13：10～14：05	発表①（8 団体×5 分＝40 分、発表者交代 10 分、委員コメント 5 分(2,3 人)）
	発表者の交代等5～10分休憩（時間オーバーの調整）
14：15～15：05	発表②（7 団体×5 分＝35 分、発表者交代 10 分、委員コメント 5 分(2,3 人)）
	15分休憩（時間オーバーの調整）
15：20～16：10	発表③（7 団体×5 分＝35 分、発表者交代 10 分、委員コメント 5 分(2,3 人)）
	発表者の交代等5～10分休憩（時間オーバーの調整）
16：20～17：10	発表④（7 団体×5 分＝35 分、発表者交代 10 分、委員コメント 5 分(2,3 人)）
17：10～17：15	提案総括（審議会会長）
17：15～17：20	閉会：区長挨拶

※時間は目安です。当日の進行により前後する場合がございます。

区長と区民の意見交換会の報告

1 主旨

平成23年度に27か所の出張所・まちづくりセンターにおいて、「保坂区長と語る車座集会」と題し、テーマを特定しない区民からの幅広い意見交換を行う場として開催した。

本年度は、車座集会の実施状況も踏まえ、テーマを特定し、区民と区長がそれぞれのテーマに基づき、より深い意見交換を行う場として、5月より実施しており、これまでの開催結果について、報告する。

※10月開催分までは、第3回審議会で報告済。

2 開催結果概要

テーマ・開催日等	内容等	担当所管部
「就労支援 就職って何？（働く・生きる～若者）について」 平成24年11月2日（金） 午後6時～8時30分 世田谷産業プラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・若者自身の職業観や人生観を聞く中で、現在の社会に不足している職業観や経験、また支援のあり方について考える。 ・「働きたい」を実現するための支援について、ライフステージごとに、生き方や仕事をとおして実現したいことを踏まえて、交流する機会とする。 <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①基調講演「若者の雇用問題について」 講師：本田 由紀 東京大学大学院教授 ②区長と本田教授との対談 ③参加者と区長との意見交換 <p>【参加者】63名</p>	産業政策部
「地域における区民の健康づくり～区民との協働による健康づくり活動について～」 平成24年11月3日（土） 午後2時30分～ 5時30分 保健センター	<p>区民自身の自主的な健康づくり活動の発表や区と区民が協働して実践できる健康づくり事業について意見交換を行い、今後の区民の健康づくり活動の充実に結びつける。</p> <p>【内 容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域健康づくり長期継続グループ表彰 ②健康づくり活動事例の発表 ③意見交換（区長参加によるグループ討議） ④区長によるまとめ ⑤健康エクササイズ <p>【参加者】41名</p>	世田谷保健所

テーマ・開催日等	内容等	担当所管部
<p>「世田谷みどり 33」の推進～都市農地の保全について～</p> <p>平成 24 年 11 月 10 日(土) 午前 10 時～12 時 世田谷区立世田谷公園</p>	<p>民有地のみどり(特に都市農地)の減少に歯止めを掛けるため、区民・事業者・行政が課題を出し合い、情報を共有し、「世田谷みどり 33」の推進に繋げていく。</p> <p>【内 容】</p> <p>①少人数での討論(ワールド・カフェ方式) ②参加者と区長との意見交換</p> <p>【参加者】 13 名 (うち、農業従事者 4 名、JA 職員 2 名)</p>	みどりとみ ず政策担当 部
<p>「世田谷の将来における都市像について」</p> <p>平成 24 年 11 月 25 日(日) 午後 2 時～4 時 10 分 世田谷産業プラザ</p>	<p>都市整備方針の改定に区民の意見を反映させるため、世田谷区の目標とする都市像について意見交換を行う。</p> <p>【内 容】</p> <p>①都市整備方針の説明 ②「ヤング世代・ファミリー世代・シニア世代」の 3 世代を想定したグループにより、世田谷に将来に残したい、伸ばしたい場所や足りない場所等について討論(ワークショップ) ③発表 ④参加者と区長との意見交換</p> <p>【参加者】 19 名(申込者 20 名、欠席 1 名)</p>	都市整備部

※開催結果の概要については、区ホームページにて公表している(別紙参照)。

3 今後の開催予定

平成 25 年 1 月 16 日(水) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
第 2 庁舎 4 階区議会大会議室
「世田谷区の災害対策について」

1 月 20 日(日) 午前 10 時 30 分～午後 1 時
世田谷美術館講堂

「文化・芸術を活かしたまちづくり」

1 月 20 日(日) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
三茶しゃれなあど 5 階オリオン

「認知症になっても安心して生活できる地域社会について」

「就労支援 ～ 就職って何？（働く・生きる～若者）について」を
テーマとした区民意見交換会開催結果について

1. 開催日時

平成24年11月2日（金） 午後6時から午後8時30分まで

2. 開催場所

世田谷産業プラザ（3階会議室）

3. 開催内容

- ・基調講演「若者の雇用問題について」
講師：本田 由紀 東京大学大学院教授
- ・区長と本田教授との対談
- ・参加者と区長、本田教授との意見交換

4. 参加者

63名

5. 当日発言者数

8名

6. 当日の主な意見、本田教授及び区長コメント要旨

(1) 学校教育のあり方

意見	・オンライン上の教育ネットワークと学校をつなげることによって学習効率を上げていくシステムが、アメリカでは実験的に行われている。このシステムを導入することにより、教育費用をかなり削減できるなど効果があると思う。日本で広がる可能性、価値などについてどのように思うか。
コメント	・選択肢が広がることは良いことだと思うので、そうした新しい試みの広がりには期待している。しかし、PISA調査の結果を見ると、日本におけるICTスキルの普及率や、学校教育での活用の水準は低い。家庭の経済状況等の影響もあるのではないかと。 ・日本のコンピューター教育、情報リテラシーやスキルを身につけることについては、教育環境整備がさらに必要であり、区としても頑張っていきたい。

(2) 職業体験

意見	<ul style="list-style-type: none">・子どもが中2のとき、3日間の職業体験が授業に組み込まれていたが、訪問先を探すのに苦労した。また、職業体験の事前学習用カードが今の職業分類に合っていないように思う。理想的な職業体験等について考えがあればお聞かせいただきたい。
コメント	<ul style="list-style-type: none">・私もこの7月に子どもの職場体験で同じような思いをした。3日間の職場体験で「その後の目の輝きが違ってくる、学習の動機付けが高まる」等と言われるが、私は、そういう効果を過大視してはならないと思う。中学校で、特定の分野に特化した教育は難しい。高校では専門学科や専門コース、総合学科・「産業社会と人間」という科目などがある。高校以上の段階では、「柔軟な専門性」、つまりその分野のコアを身に付けることで隣接分野や関連分野の「仕事」への応用がかなり可能な教育ができるのではと思っている。・自分は将来何になろうかということの中学生ぐらいで考え、たとえそうならなくてもそれを深めていくような教育、あるいは知識や技能を高校ぐらいで得るとするのはとても良いことだと思う。

意見	<ul style="list-style-type: none">・子どもの放課後体験活動を進めるNPOで、小学生を対象にいろいろな大人と出会ってもらい、その大人の仕事を実際に子どもたちが体験するプログラムを行っている。より幅広い子どもたちにそういう機会を提供していくために、行政との協働などについて意見があったらお聞かせいただきたい。
コメント	<ul style="list-style-type: none">・小学生の頃から体験することは、よいことだと思う。地域のNPOベースでの試み・活動は地域によって差があるのが現状であり、子どもたちがそのような経験ができる機会づくりの大切さを中央レベルに訴えていくことが必要になってくると思う。・今までなかった概念をつくり出すということで仕事が生まれていくという一つの好例、実例ではないかと思う。日本の社会で生きることが大変になってきている中で、どうにかしたいという気持ちも高まっている。そのポジティブな気持ちを、若い世代、女性などがソーシャルビジネス化し、活躍できるような基盤をつくっていきたい。また、将来はそういうことも見据えて、雇用の問題、生きづらさ、生き難さということを感じている区民のサポート、情報基盤をつくることに努めていきたい。

(3) 職業選択

意見	<ul style="list-style-type: none">・今の経営者の経営姿勢に疑問を感じ、大学院に進学した。フェアな価値観を持った人たちが就職できずに苦しんでいたり、例え就職できても離職してしまったり、実際に人間としてのレベルは高いのに評価されないなど、問題があるのではないかと。
コメント	<ul style="list-style-type: none">・以前の「ゆとり教育」は、社会全体で変わっていくものを把握して、その中から自分の生き方や、社会が持っている問題点も含めて、体験的に学習していくというプログラムだったと思う。今、ゆとり教育とは違う流れとなっている中で、大学院に進んだ質問者が今後どうするのか、注目をしたい。・あるジャーナリストが、「70年代から80年代にかけては日本の経営者は、公害などが問題視されていたことから謙虚であったが、90年代以降、経営者の発言が傲慢になってきている。」と発言していた。40代より若い、現状をよく知っていて新しい空気も吸っている人間が、別の生きる場をつくっていくことが必要ではないかと思う。

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の就労支援に携わっているが、やる気のある学生がいる一方で、自分のやりたいことがわからない等で就職への意欲が低い学生や、親が現役で生活に余裕があるためか「いずれ好きなことが見つければ」など、親子とも危機感がないことが多いように感じる。そのような学生たちに対して、どのようにアドバイスされるか。
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体が高度経済成長期の頃は、就職についてさほど考える必要もなく、真面目にコツコツと働いていれば報われるという時代が続いたと思う。今は、もっと自分の将来や進路を考えるべきなのだが、とりあえず高校へ行く、大学へ行く、あるいは就職する。だからやりたいことがわからない、という若者が多いのではないか。また、進路の選択などで悩んだり、生きづらさを抱える若者に向けて、行政としては、一人で悩まない、社会的関係が醸成されるような場、ネットワークの仕組みをつくっていききたい。 ・若者の仕事に関する意識の調査研究では、1990年代から2000年代の一つのキーワードは「やりたいこと」であった。数年前までは「やりたいことを探すため」に非正規を続けることが多くみられた。直近の意識調査では、むしろ安定した仕事に就きたいということが高まってきている。「やってほしいこと」あるいは「やれること」など、「やりたい」という形ではない言葉で気持ちを動かしてくれればと思う。指摘のあったような親の姿勢は、それで子どもの生活が守られる面もある一方、困る面もある。親が子どもから少しでも「離れていくこと」が必要なのではないか。

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・若年者の就職の支援をしているが、最近正社員にすごくこだわる時代になってきたと思う。皆が正社員を志向する考え方はいかがなものか。起業をどんどんしていける社会にもなってほしいと思う。次の産業を育てていくという取り組みもしていただきたい。 ・今は時代の転換期で、若者が新しい価値観を持って新しい仕事をつくっていく、自分たちで新しい道をつくっていくことが大事になっていると思う。世田谷区には、起業家コンテストなど「ショー的」なものではなく、具体的な起業支援にもっと力を入れてほしい。
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代に対する起業支援についての蓄積、取り組みという意味で、現状は、これからが出発点という段階である。超高齢化社会を引き続き支え切っていくためには、これまでなかった地域の住民や若者、女性たちが起業していくことが重要で、区の役割は、より仕事をしたい人、仕事に就く人を探している人に関する情報や条件を整理して、双方をマッチングさせることと思っている。 ・起業は大事になると思うが、単にアイデアややる気があればできるというものではない。起業がうまくいくかどうかは、地道に地域を回って環境を調べ、地域のニーズを把握し、同種のモデルが既に存在していないかどうかを確認し、コストや単価を計算し、趣旨書や事業計画、収支計画、資金や人や物件など必要なもの全てについていかに計画をつくっていくかにかかっている。こうしたプロセスやノウハウを踏まえた上で取り組んでも、もしかしたら失敗するかもしれない、そういうものである。スペースや資金、ネットワークの場だけでなく、起業に向けたノウハウの提供などの支援も必要だと思う。

(4) 就職に対する悩み

意見	<ul style="list-style-type: none">・引きこもりで、せたがや若者サポートステーションを利用して現在求職中。仕事がどのようなものであるかというようなことを探っている。西洋や欧米にはキリスト教的な軸があると思うが、これから向かっていく日本の姿として軸になるのは一体何だとお考えになるか。
コメント	<ul style="list-style-type: none">・フランスの社会学者デュルケムは、普仏戦争後の混乱したフランス社会の中で、キリスト教に依存しない形でこれからの社会をどう構築していくかということに苦闘し、有機的連帯の考え方を提示した。一つひとつの仕事だけでは社会は回らないが、それぞれの人が個別の持ち場を持ちながら有機的に絡み合っていくことで、この世界を支えていくというものであった。有機的な柔軟な専門性を持ち寄って互いにタッグを組みながら、実質的に社会を支える力を発揮していく、というイメージ。簡単に答えは出ないかもしれないが、参考にされてみたらどうかと思う。・東日本大震災以降、様々な立場の人が考えるキーワードになるのが、コミュニティであると思う。一部傷ついていたり、壊れていたり、機能不全になってきてはいても、完全に壊れているわけではないコミュニティの修復再生が大事である。近隣の人たちの顔が見えていて、地域の中が回っているということが、犯罪に対しても災害に対しても実は強い。こうしたことを目標にしていきたいと思う。

意見	<ul style="list-style-type: none">・女子大学の2年生だが、現在のように厳しい経済社会情勢では将来の夢を持たず、「とりあえず正社員で就職できれば何でもいい」といった考えで、友達も含め諦めている現実がある。誰に相談すればいいのか分からず、藁をもつかむ思いで参加した。若い女性たちに何かアドバイス等あれば、お聞かせいただきたい。
コメント	<ul style="list-style-type: none">・最近、終身雇用の希望が高まっているが、現実には、生涯収入が低い非正規社員が増えているし、増えざるを得ない状況がある。男性も育児責任を同等に担うようになれば女性の不利さはなくなるが、現時点では、資格職、例えば保育士や薬剤師など、自分のために柔軟な専門性を身につけ、「私はこれに関しては一定の力を必ず発揮できます」と自信を持って堂々していただけることが、メンバーシップ社会の中で不利な女性にとって、一つの手段と思う。・今の社会や企業、仕事において、自分は何をしていけばいいのかを考えるのは、男性に比べて女性がより厳しい状況に置かれていることも一因だと思う。区も男女共同参画社会をうたい、下北沢に「らぶらす」という拠点も持っている。今の言葉を重く受け止めて、一人で悩むことなく、今回一度だけで終わったということのないように、考えていく機会、未来をつくっていく機会、情報を得る機会を提供していきたいと思う。

「地域における区民の健康づくり」をテーマとした
区民意見交換会の開催結果について

1 開催概要

(1) 日 程 平成24年11月3日(土) 午後2時30分～5時30分

(2) 会 場 世田谷区保健センター(3階 大ホール)

(3) 参加者数 41名(健康づくり活動団体等32名・一般参加9名)

(4) 内 容

地域健康づくり長期継続グループ表彰(6団体)

健康づくり活動事例の発表(3事例)

- ・新代田地区身近なまちづくり推進協議会の活動について

新代田地区身近なまちづくり推進協議 会長 恩田 照安 氏

- ・玉川地域での、区、区民、地域との協働による健康づくり活動について

夢工房わらぶとん 代表 千葉 一明 氏

- ・世田谷ウォーキングフォーラムの活動について

世田谷ウォーキングフォーラム 事務局 佐伯 京子 氏

意見交換(区長参加によるグループ討議/全6班)

- ・共通テーマ 「あなたが今取り組んでいる健康づくりと長続きの秘訣」

- ・班別テーマ 奇数班 「みんなで取り組みたい健康づくり」

偶数班 「これからやってみたい健康づくり」

区長のまとめ

健康エクササイズ

2 当日の主な意見等

(1) 共通テーマ 「あなたが今取り組んでいる健康づくりと長続きの秘訣」について

区 分	意 見 要 旨
個人の取り組み等に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 万歩計をつけ歩くことや、ラジオ体操を毎日続けることなど、各個人が自発的に行動する意欲をもつこと。健康づくりに前向きに取り組むことが大事である。 ➤ 自分自身が健康づくりに興味をもち、続けることが大切である。 ➤ 健康づくり活動を通じて、自分の健康状態を知り、効果を実感できたことで長続きできた。 ➤ 介護をしていると家族に気が引けて「外出する」とは言いづらいが、「体操教室」なら理解してもらいやすかった。参加することで自分の気持ちをリセットでき、元気をもらって介護を頑張れた。 ➤ 活動を通じ参加者が健康になることで、グループの活動が発展した。 ➤ グループの運営や社会的な役割を担い、責任を持つことで持続できる。 ➤ 歩く姿勢や自分のペースに応じ、一定の速度で歩くことが長続きの秘訣と思う。
誰もが参加できる風土づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 欠席者には無理に参加を求めないことや、参加者に完璧を求めないなど、個人の状況に合わせた活動にすることが大切。勿論、休みがち仲間へのフォローはしっかりすることも大事。 ➤ 個人で気楽に参加できる環境づくりが重要。 ➤ グループの中でも体操をしている人としていない人の体力の差があり、それらを是正することが課題。
仲間づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 活動グループやクラブの楽しい雰囲気づくり、より良い人間関係を築くことが大切。 ➤ 体操を目的に集まったとしても、会の終了後にお茶を飲みながらの楽しい会話や、体験談などを通じた情報共有がグループの継続につながる。 ➤ みんながわきあいあいと楽しみながら、仲間とのふれあいを広げていくことが大切。 ➤ みんなで意見を交換しながら、自分たちでグループをつくりあげていく気持ちを持つことが継続の秘訣。 ➤ 好きなこと、楽しいことを、世代を超えて行うことが楽しい。 ➤ 指導する方は生徒から元気をもらい、生徒は指導者から元気をもらい、助け合い、教え合う関係が望ましい。
食を通じた健康づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 食生活にも気を配るなど、運動よりもまず健康には食育の問題を考慮すべき。 ➤ 健康には食事が非常に大きなウェイトを占めている。できるだけ外食をやめ、栄養面を考え、体調に合わせて食事を変えられるということができるとよい。 ➤ 朝食を食べずに登校すれば、先生の言うことも耳に入らず勉強にも集中できない、という問題がある。

区 分	意 見 要 旨
活動を継続するための環境づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 長続きするためには、身近なところで決まった日に活動できる場所の確保が重要。 ➤ グループ立ち上げの際に、チラシを地域に配布し参加を呼びかけるなど、積極的な行動が必要である。 ➤ 一緒に活動できるメンバーを増やす努力が必要。積極的に働きかける機会やふれあい教室など、参加しやすい活動の仕組みづくりを区に支援して欲しい。 ➤ 活動を指導する方が、自らの体力維持を目標にすることも重要。

(2) 班別テーマ

奇数班 「みんなで取り組みたい健康づくり」について

区 分	意 見 要 旨
地域の人材育成等に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 子どもの頃から体を動かすことや、健康に関する様々な情報を提供したい。小学生くらいからスポーツに取り組むには、小学生を指導できる地域人材を育成する仕組みづくりに取り組みたい。区にも支援して欲しい。 ➤ 自主活動グループには男性が少ないので、男性のまとめ役等を担える人を増やしていきたい。
こころの健康づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 核家族化が進み、独居高齢者や子育てで孤立し、不安感を抱くことも多いと聞く。体操の自主グループも、活動を体操だけに限定せず、こころの健康という観点から会を運営することも今後の取り組み課題である。 ➤ 高齢者だけでなく、若い人も含めて多様な人と顔を合わせ、食事や会話を楽しむことができる場の存在が、こころの健康づくりにとって大切である。
食を通じた健康づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 家族で食事をすることを奨励していきたい。 ➤ 学校の統廃合後の利用として、地域の人同士が食事を一緒に作り食べられるなど、気楽に集まれる場所としての活用を考慮して欲しい。 ➤ 「新樹苑」で毎日違うメニューのお昼を食べることで栄養バランスをとっていた方が、一時閉鎖によりその価値を改めて実感したと聞いた。一人でなく、いろいろな人が顔を合わせ、一緒にご飯を食べることにより、食事や会話を楽しむことが健康づくりにとって大切である。
その他の健康づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 禁煙活動の活発化に取り組みたい。 ➤ グループ活動に関する情報を、区のおしらせに掲載することやパンフレットなどを作成し、地域の診療所・病院などで配布PRし、情報の発信を行ってはどうか。 ➤ 高齢になると友人、刺激、感動、興味も減り、閉じこもりがちになる。声かけや情報発信により、閉じこもりがちな人を地域活動等に誘い出し、自分の健康に責任をもってもらうよう促すことが大事。地域や活動仲間と話し合いながら、健康づくりを通じた仲間づくりのきっかけになればと思う。

偶数班 「これからやってみたい健康づくり」について

区 分	意 見 要 旨
区民の地域活動参加を促す意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年齢とともに孤独になりやすい。できるだけ人と会って話すようにしていく。 ➤ 引きこもりがちの方には、直接伺って地域活動などに連れ出すことが大事。 ➤ 自主グループ活動に、足・腰が悪くて出かけられない人もいる。そういう方の健康づくりをどうするか考えていくべき。足が悪い人には、足が悪い方向けの健康づくりもあり、グループの活動目的をはっきりさせた方がよい。 ➤ 引きこもりがちな方には、地域でコミュニケーションをとりながら健康づくり活動に参加していただけるよう働きかけることが必要。地域の助け合いが大事である。
健康づくり活動の活性化に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ いま行っている活動について、地域の方々の気をいかに引きつけ広げていくかが課題。 ➤ 活動場所の安定的な確保と、グループの代表者の資質が鍵を握るのではないかと。大きく包み込んでくれるグループの代表者がいるところは、活動も発展している。 ➤ 活動団体の目的を明確にする必要がある。 ➤ 一つのグループでいろいろな活動ができるようにしたらよいのではないかと。 ➤ 井戸端会議のように自由に参加し、発言でき、企画もできるなど、コミュニケーションを密接にできれば、グループ活動は大きく広げられる。 ➤ 地区のまちづくりセンター等の活動グループに対する区の支援も重要である。
地域の絆づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東日本大震災で、数多くの故郷が壊滅したことを踏まえれば、地域の人を相互に助け合えるように、一人ひとりが身体を鍛えておく必要がある。 ➤ 自転車に乗った中学生が、見知らぬ女性にあいさつをしている光景を目にした。地域として活気があれば、子どもも育まれる。身体健康づくりだけでなく、地域をどうするかも大きな命題であると思う。
世代を超えた健康づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ラジオ体操を大人も子ども一緒に、通年で行ってはどうか。 ➤ 囲碁やマージャンを行える場所では、男性の参加が多いが、その合間に少し運動をするような仕組みを作ってはどうか。 ➤ 世代を超えた健康づくりのグループづくりをどうしていくが、これからの命題。
その他の健康づくりに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 単に歩くだけでなく歴史探訪などを組み合わせ、学びながら楽しむなど、様々な動機付けが健康づくりには必要。 ➤ 区民農園を使う等、みどりと触れ合うことが大事。

(3) 意見提出者(意見交換会後に提出された意見 1名)

世田谷区では、大蔵大根が平成9年から復活し人気を博しているが、実は交配種である。都市農業を存続しみどり33%をめざす世田谷区には、歴史と伝統のある大蔵大根(固定種)の普及に力を入れていただきたい。また、東日本大震災で被災した東北地方を応援する区の姿勢に拍手を送りたい。

3 区長のまとめ

グループ討議に参加させていただき、健康づくりに対する考えや実際の活動内容を伺い、大変参考になった。私自身も運動不足に陥りがちなので、緑道を歩くことを心がけてきた。今年の元旦には、「区民新年元旦あるこう会」にも参加し、世田谷区役所から総合運動場まで歩いたが、区内7か所からお集まりになった皆さんが1100人もおいでになり、大勢の参加に驚かされた。来春も参加し、皆さんと新年を爽やかに歩きたいとの気持ちでいる。今年参加された方も、これからウォーキングを考えてらっしゃる方も、ぜひ参加していただけたらと思っている。

(1) 活動の場所の確保について

活動場所の確保に大変苦労しているとの声を数多く頂いた。世田谷区は人口が多い中で、健康づくりだけではなく様々な分野で区民の活動が活発であり、活動のスペースが足りなくなっていると認識している。今後は、空いているスペースや使用頻度が低いスペース等を把握しつつ、効果的に配分するよう心がけていきたい。

(2) 健康増進施設の開設について

来年4月、池尻に健康増進・交流施設がオープンする。ここは保育園等も併設される複合施設だが、区民の皆さんの健康づくりの場となる。皆さんに、積極的に利用していただきたい。

(3) 意見交換会について

時間の関係で、もう少し議論ができればよかった。参加された皆さんの中には、「さらに発言したい」とお思いの方もいらっしゃると思う。このような機会を今後とも継続していきたい。

(4) 最後に

区民の主体的な参加により、「健康づくり」や「介護予防」を支えていく仕組みの充実を区政の目標の一つとし、区民が元気に過ごせるまちの実現をめざしている。「元気印」という言葉はかつて私が発案したが、区民の皆さんが「元気印」になることや「元気体操リーダー」の活躍など、皆さんがますます「元気」で活躍されることが、区民の健康づくりにとって大切なことと感じた。

「世田谷みどり33」の推進をテーマとした区民意見交換会開催結果

1. テーマ：「世田谷みどり33」の推進～都市農地の保全について～

2. 開催日時：平成24年11月10日（土曜日）午前10時～12時

3. 開催場所：世田谷区立世田谷公園

4. 参加者：13名（うち、農業従事者4名、JA職員2名）

5. 少人数での討論（ワールド・カフェ方式）で出された主な意見

（1）世田谷の農地の良いところ

- ・災害時に避難場所となり、食料を供給できる。
 - ・都会にいながら区民農園等で農業を体験できる。
 - ・新鮮で安全で安心な食物を口にできる。
 - ・豊かなみどりに囲まれて景観が良くなり、四季を感じたり癒されたりする。
 - ・食育の場、自然との関わりを学ぶ場となる。
 - ・雨水が土から地下に浸透するので、水害防止になったり、地下水が豊かになったりする。
 - ・馬事公苑の馬の糞を廃棄せずに、有機肥料として地域循環できる。
 - ・ヒートアイランドによる気温上昇が抑えられ、気候が安定する。
 - ・かつて世田谷に農地が多かったこと、農業が盛んだったことを伝えられる。
- JA職員、農業従事者の意見
- ・消費者が近くにいるので直売でき、意見を聞いたりコミュニケーションをとることができる。
 - ・地元消費者へ野菜を提供でき、世田谷の食のよりどころとなっている。
 - ・運搬距離が短く、葉物野菜等弱い野菜を運搬するのに都合が良い。

（2）都市農地保全の課題

- ・近隣住民の理解が得られない。
- ・労力が大変で、十分な収入が得られず、後継者がいない。
- ・相続税のため農地が転用され減少している。
- ・生産緑地の貸借ができない。
- ・均等相続により農地が分散、分割されてしまう。
- ・外環による買上げ、地上げがある
- ・宅地化農地の場合、固定資産税や都市計画税が高額である。

(3) 都市農地の減少を抑制するためにできること

- ・農地に関する税制度や法律を改正する。

例) 農業生産に不可欠な資材置き場や屋敷林の課税・相続税を減税する、農地の賃貸を可能にする、外環予定地を区民農園にする、相続時は区で買い受ける、宅地や小中学校用地や空家を農地転用する、農地利用規制を緩和する、理解のある政治家を選ぶ、農業関係施設を生産緑地とする、区をまたいで農家の意見を集約し国に意見する、都市型環境への貢献として補助金をつくる、基金等に募金してもらう

- ・世田谷農地や世田谷産の野菜の魅力を PR する。

例) イベントに人を呼ぶ工夫をする、駅前で夕市を開く、スーパーに専用コーナーを作ってもらう、農地に親しめるスペースをつくる、区民運動を展開する、農業への区民参加を促す機会をつくる、生産者と消費者が交流できるようにする、災害と農地の関係を地域で確認する、子どもと親に農業を体験してもらう、農地やみどりの大切さを教育する

- ・後継者を増やす。

例) 農地所有者と農業をしたい人を結びつける機関や仕組みを作る、後継者のやる気向上を促すきっかけ(イベント等)をつくる、後継者を育成する

- ・農業経営状況を改善させる。

例) 農地から新しい収入源を創出する、園芸高校や農大とコラボレーションする、マーケティングを開発する、ファンドを立ち上げる、地元スーパーなどと連携する、ブランドの価値を上げる

6 . 参加者と区長との意見交換で出された主な意見と回答

(1) 区の取り組みについて

意見要旨	回答要旨
区は様々な施策を打ち出しているが、相続税制度が続く限り農地の減少は続くのが現状であり、それに対して区はどのように取り組んでいくのか。	相続が発生して手放さなければならない農地を区が全部買収できれば良いが、財政事情からそれは困難である。税制等の制度を思いきって変えないと農地の減少を止めることができない。多くの区民が、農地の減少を自分たちの生活環境の問題だと感じ、立ち上がることが重要であり、その動きを制度の改正に結びつけたい。区は、他自治体と協力して、制度の改正を国や東京都へ引き続き要請していく。 また、農地保全方針に基づく取り組みを進めるとともに、営農をできる限り長く続けられるよう支援していく。

(2) 都市農地保全に対する区民や NPO の関わり方について

意見要旨	回答要旨
<p>世田谷の農地の魅力を広く多くの人に伝えるために、NPO 法人を立ち上げ、バーベキューを農地で行う等の畑を通じた様々な活動をしていきたい。その場合、区が区民に求める NPO 活動はどのようなものか。また、区からどのような支援をもらえるか。さらに、区と協働事業を進めていくことはできるか。</p>	<p>農地に関する税制や制度は、全国一律であるが、都市農地は人口密集地にあり、防災等の面からもより減少を抑制する必要がある。都市農地を守るために税制や制度を変えるには、世論の盛り上がりが必要であり、農家と区民との架け橋になるような NPO 活動をしていただくと嬉しい。</p> <p>区民から、農地活用に関する様々な意見、企画が出て、交流が生まれるとよい。ただし、法制度により農地の使い方には制約があるため、寄せられた意見を反映したり、企画ができない場合も考えられる。区は情報を提供し、問題の解決方法を一緒に考えることができる。</p> <p>また、NPO によっては農業公園の運営をお任せできるかもしれない。</p>
<p>ほとんどの区民は、農業振興計画やその進捗状況を知らないし、計画にどう関わっていいかわからない。</p> <p>区民や NPO が計画に関われる施策を、ホームページ等で紹介してほしい。</p> <p>区民には、法律など分からないことが多く、できると思ってもできないこともある。それらの解決方法を具体的に紹介してほしい。</p>	<p>みどりの活動に参加したい区民は多い。農業振興計画はもっとホームページ等で紹介していく。</p> <p>農業公園の運営内容は、区民の意見を伺いながら定めたい。また、区民が参加する事業を起こしたいので、ぜひ参加していただきたい。</p>

(3) その他

意見要旨	回答要旨
<p>みどり率と緑被率は、昭和 48 年から右肩下がりだが、平成 13 ~ 18 年に上がっているのはなぜか。</p>	<p>平成 13 年までは 4 年毎、平成 18 年からは 5 年毎にみどりの現況調査を行い、空から航空写真を撮って測っている。技術の開発、デジタル化で、小規模な緑地も把握できるようになり、みどり率が高くなった。実際は横ばいくらいかと思われる。</p> <p>なお、平成 23 年に、平成 18 年と同じ方法で測定したが、この 5 年間ではやや減ってしまった。区では、みどりを増やす様々な事業を進めており、みどりの減少に歯止めをかけようとしているが、現状としては厳しい状況である。</p>

「世田谷の将来における都市像について」をテーマとした
区民意見交換会開催結果について

- 1 テーマ あらゆる世代が考える「世田谷の将来における都市像について」
- 2 開催日時 平成24年11月25日(日) 午後2時から4時10分
- 3 開催場所 世田谷産業プラザ 3階会議室
- 4 実施内容 都市整備方針の説明
「ヤング世代・ファミリー世代・シニア世代」の3世代を想定したグループにより、世田谷区に将来に残したい、伸ばしたい場所や足りない場所等について討論(ワークショップ)
発表
参加者と区長との意見交換
- 5 参加区民等 19名 (申込者20名・欠席1名)

参加区民等	参加者計
公募区民	6
区内大学(在勤・在学)	13
合計	19

(1) ワークショップによる提案の要旨

・ヤング世代

「世田谷区にもともとある、いろいろな自然や商店街や大学や美術館で、人との繋がりをもち、もっと伸ばして行き、自然と人と時代の架け橋になれるような街になって欲しい。」

・ファミリー世代

「世田谷という地域の形・風景を大切にすることで学び、繋がっていけるような街になって欲しい。」

・シニア世代

「場所の記憶が継承されている街になって欲しい。」

【区長のコメント】

「地域コミュニティ」これを再生というキーワードでもう一度編み上げていくような街づくりが必要と受け止めさせていただいた。

(2) 意見交換における主な意見・質問と回答の要旨

区民参加の手法について

意見等要旨	回答要旨
区の主催するイベント等の場所はあっても、若者とシニア世代や新住民と旧住民といった者が話をする仕組みづくりをどのように考えているのか。	本年6月、区の未来像について語り合うワークショップを実施した。行政の内部だけの議論では出てこない意見もあり、異世代交流の場面というのは区で意識的にセットする事が大事だと考えている。
この会も含め、区民から関心が持たれていないため応募者が少ない。 これまで区は、ひとつの案で意見を求めてきたが、代替案や複数案を提示することで考えやすくなり、関心を持ちやすくなると思うがどうか。	様々な立場の人に門戸を開きながら具体的なやり取りが出来ればと考えている。 今後、タイトル・ネーミングの付け方や進め方についても工夫をしていく。

開発規制等について

意見等要旨	回答要旨
<p>最近、大規模マンションが建築され人口が増加し、また相続等で売却された土地にミニ開発が行われ、都市景観も悪化している。</p> <p>今の現実に対し、理想に向かって行政がどういう形で対処していくのか。</p>	<p>街づくり条例では、事前に大型マンションの建設にあたっては、周辺住民との事前協議を行うこととしている。</p> <p>(以下、副区長より補足説明)</p> <p>一律的には用途地域に合わせて高さ制限を入れ、更に地区毎の高さ制限は地区計画で対応を図っている。敷地規模の最低限度については、第一種・第二種低層に70㎡、80㎡、100㎡の制限をかけてきたが、一中高以上の用途地域における制限の強化については、区民の方の意見を踏まえて考えていきたい。</p>
<p>世田谷区の都市模型というものづくり、その都市・場所にとってその建物がどのように影響を与えているのかを立体的に示すべきだと思うがどうか。</p>	<p>家を建てる際に建築家が模型を造るが、その繋がり方で都市の全体像を捉えることだと思うが今後の検討テーマとさせていただく。</p>

その他

意見等要旨	回答要旨
<p>88万人が世田谷にとって適正な人口なのか。その人口を制限するということの必要性について。</p>	<p>都市づくりの中だけで解決するのは大変難しい問題であるが、世田谷区民の高齢化とともに、子供達も増加しており社会全体の事を考える必要がある。</p> <p>今後10数年は人口が伸び続けるが、その先には人口が減るといような推計があるので、今回の都市整備方針改定の中でも区民の方々との意見交換において世田谷の適正人口なども議論しながら、併せて都市像をどうするか考えていきたい。</p>
<p>まちなか観光により、世代間も交流もでき、非常に夢のある活動と思う。世田谷区内には、まだ資源があると思うが、どういう基準で選定していくのか。</p>	<p>今研究中であるが、乗り放題、一日チケットなどを使って、いろんな所をめぐる社会実験を考えていきたい。</p> <p>また、区民ガイド的な方々を繋いで、コミュニティ再生のひとつの軸としてまちなか観光を考え、街の大事なものの再発見して見せていきたいと思っている。</p>